

キャンパスを歩き、街を訪ねる。

緑陰の旧向ヶ岡学寮跡地に完成した向ヶ岡ファカルティハウスを訪ね、農学部御用達の写真店「ルビー写真」のご主人に往年の思い出を訊く

樹と学と憩いと

向ヶ岡ファカルティハウス

夏 の日差しに緑がこぼれる中庭、そしてそれを静かにとり囲む白壁。弥生キャンパス旧向ヶ岡学寮跡地に建てられた向ヶ岡ファカルティハウスは、東京大学130周年記念事業の一環として計画され、昨年9月に竣工した。木造2階建て、逆L字型のこの館は、北側に海外研究者や学内教職員のための宿泊可能な滞在型教員室を持ち、正面の馬道を挟んで、南側にセミナー室、談話室、レストランを備える。

当プロジェクトの運営委員長 安藤直人教授(生物材料科学専攻 木質材料学研究室)によれば、建設にはごく一般的な在来軸組構法が用いられたとのことだが、出来上がった各スペースには独特の個性が光る。

たとえば北棟にある滞在型教員室。巧みなレイアウトで居室同士が完全に独立し、壁の向こうは無人の静寂。東京で滞在者にこれほどのプライバシーを提供する空間の贅沢が他にあるだろうか？

また、南棟の2階の談話室。落ち着いた照明の下に浮かび上がるのは、無垢材が交響する重厚な木質空間だ。浮遊りの表面加工を施した台湾ヒノキ、早生樹のアカシア、スギの柾目の縮塗、編



安藤直人教授とヒマラヤスギの大テーブル

黒檀の欄間といった素材が、高価なマホガニーにも劣らない品格を表現している。「ここは木材の見本市なんです」と安藤教授が目

を細めた。木と同様に、カウンターの棚には色とりどりのボトルが並ぶ。なかには研究室お手製のラベルもあり、見ていて楽しい。「異なる分野の学がここに集い、くつろいだ交わりのなかで、互いを刺激し合う、そんな場所にしたい」と安藤教授は話す。

談話室の下にはレストラン「アブルボア」がある。仏語の店名は「動物の水飲み場」転じて「大酒呑み」という意味だそう。和のメニューが人気で、ランチタイムにはほぼ席が埋まる。入口に立つと白木の大テーブルが目をはなした。「弥生キャンパスに樹っていたヒマラヤスギです」と安藤教授が囁く。本来なら木材チップとなるところを、取立てて活かして使っている。そう聞くと、樹齢85年の樹の息吹が聞こえてくるような気がしてきた。



滞在型教員室



談話室「ラウンジS」



◎お問い合わせ

向ヶ岡ファカルティハウス

住所：〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
 東京大学農学部 弥生キャンパス内

滞在型教員室、セミナー室

電話：03-5840-8495 FAX:03-5840-8908
 <受付業務> 9:30~12:00、13:00-18:00

レストランアブルボア

電話：03-5840-8901 FAX:03-5840-8908
 <営業時間> 11:00~22:00 (LO食事のみ20:30) 定休日：日曜・祝祭日

ラウンジS

電話：03-3813-0991
 <営業時間> 11:00~22:00 定休日：日曜・祝祭日